獅子島中学校がジュニア料理選手権でグランプリ

全国に地元の良さをPRできた





中高生を対象とした「第13回ジュニア料理選手権」の最終選考が11月30日、味の素グループうま味体験館（神奈川県）で開催され、獅子島中学校（松岡仁志校長・18人）の1年生で構成された「チーム獅子島3Boys（白濵龍義さん（写真手前、右から）、須嵜敢太さん、山下海さん）」が団体部門【中学生の部】に出場。見事グランプリを受賞し、12月11日に川添町長のもとを訪れ結果を報告しました。

大会は、味の素株式会社と株式会社オレンジページが協同で開催している国内最大級の家庭料理コンテストで、中高生に料理の楽しさや喜びを伝える場を提供し、家庭での食文化の担い手を育成することを目的に開催しています。

チームは、地元のブリやかんきつ類、アオサなどを使用した「獅子奮迅！島のブリ竜田バーガー～潮風と太陽の香り」（写真左）を考案し本番で調理。その美味しさで審査員の舌をうならせました。

3人は「長島のブリをPRできるよう、ブリを土台につくると決めていた。1位を取れたのは地域の応援や学校、家族の支えのおかげ。全国に地元食材の良さを伝えることができてうれしい」と話し、地元への感謝とグランプリ受賞の喜びを話しました。

ベースボール教室を開催

技術に感動、基礎の大切さを再確認

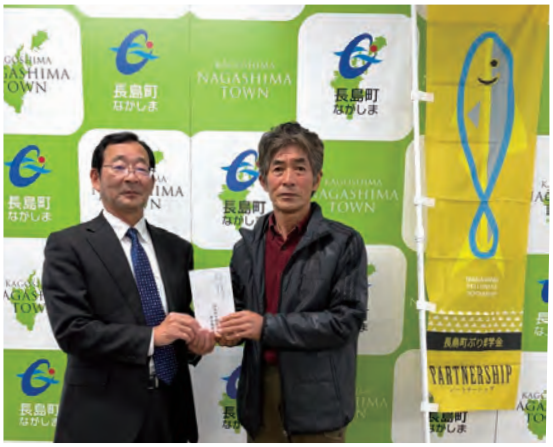


12月21日、町川床コミュニティ運動場で、プロ選手が教える「ベースボール教室inNAGASHIMA」が開催されました。

この日は、渡邉陸選手（ソフトバンクホークス）、牧原功汰選手（同）、増田珠選手（ヤクルトスワローズ）、濱田太樹選手（阪神タイガース）の4人を講師に招き、町内の小中学校の野球少年・少女はバッティングや守備の基本を教わりました。参加した濵﨑悠吾（ゆうご）さん（蔵之元小・5年）は「プロ選手の技術に感動した。基本の大切さを再確認し、教えてもらったことを今後に生かしていきたい」と話しました。

行人岳運営委員会がぶり奨学金基金に寄付

未来を担う子どもたちに



12月22日、行人岳不動明王廟（びょう）運営委員会（末松直喜委員長）が町へ寄付金を贈り、長岡勇二副町長が受け取りました。

末松委員長は、行人岳へ参拝に来た本町のぶり奨学金制度利用者と会話した時に「制度のおかげで進学ができた。将来は長島に帰ってきたい」と聞き、感銘を受け「制度の素晴らしさを再確認した。寄付金は、ぶり奨学金基金へ充ててもらい、未来の長島を担う子どもたちのために役立ててほしい」と寄付への思いを話しました。